

# 学校評価報告書

学校名 深谷市立岡部中学校

校長名 清水正之



## 1 学校評価のねらい（学校としての受け止め）

- (1) 本校教育活動の質的向上
- (2) 組織的・継続的で円滑、効果的な学校運営の改善
- (3) 学校運営に関する関係者の参画意識向上
- (4) 学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり

## 2 評価の方法（自己評価・学校関係者評価・第三者評価の種別、回数・方法）

評価対象者	評価時期	評価回数	評価方法
生徒	1 2月	1回/年	アンケート用紙による直接回答
保護者	1 2月	1回/年	アンケート用紙による直接回答
職員	1 2月	1回/年	アンケート用紙による直接回答

## 3 評価の結果

### (1) 主な評価項目における経年変化

#### ア 生徒による評価

主な評価項目	H29	H30	増減
岡部中学校（学校）が好きだ	89.0	88.4	-0.6
クラスのみんな仲良しだと思う	90.5	84.2	-6.3
学校の授業がわかる	87.3	88.7	+1.4
授業中に発言や発表をしている	52.1	57.3	+5.2
自分の将来や進学・勉強について家の人と話をしている	83.7	80.3	-3.4
学校から「たより」や通知を必ず家の人に渡している	88.4	86.1	-2.3
部活動にすすんで取り組んでいる	92.1	95.3	+3.2
清掃活動に進んで取り組んでいる	97.9	99.2	+1.3

- ・「学校が好きだ」と回答する生徒の割合が若干ではあるが減少していることは、課題として捉えている。「クラスのみんな仲良しだと思う」と回答している生徒の割合が減少していることに起因していると思われる。
- ・学習面については、学校研究課題「自立と貢献できる生徒の育成～総欠席数を減らす取組をとおして～」に本年度から取組はじめ、徐々にではあるが効果が表れていることが伺える。
- ・家庭との連携の面では、様々な「たより」や通知等をとおして情報を発信しているが、生徒の手から保護者へ渡ることが減少しているため、情報の伝達が遅れてしまうことが憂慮される。

## イ 保護者による評価

主な評価項目	H29	H30	増減
岡部中学校は子ども達が安心して学べる場所づくりに努めている	96.2	95.8	-0.4
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	86.5	86.9	+0.4
安全な登下校と交通安全についてよく指導している	91.6	92.0	+0.4
授業がわかると言っている	67.8	70.6	+2.8
学校からの配布物を必ず渡している	—	69.4	新規
次の日の授業準備や提出物を、必ず前日に行っている	—	69.7	新規
学校での話やどんな勉強をしているのか、よく話をする	73.7	69.5	-4.2

- ・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」と回答した保護者は徐々に増加しているが、継続した取組とともに、保護者への情報発信などもより積極的に行っていく必要がある。
- ・保護者の勤労形態の多様化などで、家庭で生徒と保護者が学校生活について話をする機会が減少していると考えられ、学校からの通知等について伝達に課題があることから、学校生活の様子を家庭へ効果的に伝える方法について改善が必要であると思われる。

## ウ 職員による評価

主な評価項目	H29	H30	増減
学校図書館を計画的に利用し、読書活動に積極的に取り組んでいる	2.9	2.9	±0
適切な課題を出し、家庭学習を定着させている	3.1	3.1	±0
総合的な学習の時間は、計画的な指導と適切な学習内容で行われている	3.2	3.1	-0.1
トライアングルプロジェクト「全力校歌」の取組が徹底されている	3.1	2.8	-0.3
校務分掌が適切に組織され、活用されている	3.3	3.4	+0.1
個人情報保護のために、情報管理が徹底されている	3.7	3.6	-0.1
PTA、地域団体との連絡は密に行われている	3.5	3.5	±0

- ・授業や学校行事に係る評価項目について、職員は厳しい評価の視点で臨んでいることが伺える。特に、学力向上面で重要な家庭学習や、本校の特色である項目について厳しい評価を行っているが、それだけ本校に必要な活動であり、より一層充実させていく必要があると考えていると思われる。

## (2) 学校教育目標の具現化に係るもの

### ア 生徒による評価

生活習慣等については多くの項目で85%を超えており、おおむね良好である。学習面や人間関係の面で向上させることが今後の課題である。

### イ 保護者による評価

学校の教育活動について、おおむね肯定的な評価を得ている。今後は、より一層家庭との連携を意識した情報共有を推進していく必要がある。

## ウ 職員による評価

おおむね肯定的な評価をしており、組織として一丸となって取り組んでいる。職員個人の取組や、学校の特色に強く関連した評価項目について厳しい評価の視点で臨んでいる。

### (3) 学校研究課題の具現化に係るもの

本年度から開始した学校研究課題「自立と貢献できる生徒の育成～総欠席数を減らす取組をとおして～」は、生徒の出席状況が学校の健康度バロメーターであるという認識のもと、生徒個々の欠席状況を的確に把握することを通じて、学校教育活動全体の活力を向上させるためのものである。

学校（職員）のみで取り組むことのできる内容、家庭や地域との連携が必要な内容など評価の視点は多岐にわたるが、学校と家庭との情報共有などについて検討していく必要があると思われる。

## 4 次年度へ向けての展望

昨年度に引き続き、生徒による評価及び保護者による評価において、規律面や基本的な生活習慣に係る評価項目は、おおむねほとんどの評価項目で90%以上の高い評価となっている。学習に関する評価項目は徐々にではあるが向上に兆しが見受けられ、本年度から新たに取り組みを始めた学校研究課題の成果が徐々に成果を見せ始めていると思われる。

しかしながら、生徒同士の人間関係に係る評価項目については昨年度の評価結果を若干ではあるが下回り、改善が必要である。特に、多感な時期である中学校期における人間関係は重要であり、今後も、一人一人の生徒を見つめた教育活動を推進していく。

次年度へ向けて、本年度徐々にではあるが成果が見受けられた学校研究課題の取組をさらに深めて推進するとともに、本校ならではの特色ある教育活動を見つめ直し、学校教育目標の具現化を図るとともに、「自立と貢献」できる生徒、「想像力」をもち、「団体戦」で何事にも向かっていく生徒の育成を目指す。